

会 議 録

1 会議名

令和4年度 第3回高田区地域協議会分科会（第1分科会）

2 議題

（1）協議（公開・非公開の別）

高田区の活性化について（公開）

3 開催日時

令和4年6月6日（月）午後7時10分から午後8時18分まで

4 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委 員：浦壁澄子、小川善司、高野恒男（副会長）、富田晃、本城文夫（会長）

松倉康雄、宮崎陽、村田秀夫（欠席：小嶋清介）

・事務局：南部まちづくりセンター 滝澤センター長、難波主任

8 発言の内容（主な発言の要旨）

—次第3協議 高田区の活性化について—

【富田座長】

第3回第1分科会を開会する。

報告書案を作成してきた。それを説明して、その中で意見をいただければと思う。最後に今後の展望というものがあり、関連して本城会長から提言をいただいているので、それを含めて意見をいただければと思う。以前から7月を目途に区切りをつけるとしてきた。では報告書案を説明する。

構成として、第1分科会のメンバー紹介、そしてテーマ選定、具体的活動、結論、

今後の展望とした。参考資料は今までの協議の要旨、ヒアリング一覧、町家見学会、研修会、協議フロー、地域活動支援事業の推移という構成としている。

今日皆さんにチェックしていただきたいのは、この報告書案についてである。ヒアリングをした若者や市職員の方に配ろうと考えている。該当の方には私から個別に名前を出すことでの了解を得ることを考えている。皆さんからはそれ以外で個人情報の関係等で気づいた点があればお願いしたいと思う。

まずメンバー紹介。高田区の活性化について、そして、高田区の魅力の発見と共有についての課題が一緒になって第1分科会となった。

次にテーマ選定。地域活動支援事業の提案において、令和3年度に若者グループが提案した事業が落選した事例があった。これからの活動が期待される若者の芽をつぶすことなく、若者グループを中心にヒアリングし、地域活動支援事業の活性化を目指すことをテーマとした。しかしながら、地域協議会において、地域活動支援事業の活性化なるテーマは、一部の若者からのヒアリングでは、その後の審査の時に情が入り、平等ではない旨の意見があり、取り下げとした。非常に重い判断だった。その後、テーマについて種々検討し、高田区の活性化のためには、これからリードしていく若者が大切であり、若者の地域参画というテーマを提案して了承いただいた。

次に具体的活動。分科会は基本的に第一月曜日に令和3年9月から開催した。地域参画している若者の調査を5月まで行った。地域活動を行っている若者の情報収集のため、くびき野NPOサポートセンターやその他行政、市民団体、各方面の方にお会いした。ヒアリングリストの一覧は参考資料を参照願う。合計24人の方にヒアリングした。

そして令和3年度第4回分科会にて町家のリノベーション、スポーツ、文化、介護等に関わっている若者が挙げられた。その中で町家のリノベーションを中心に行っている若者団体であるキナイヤプロジェクトが挙げられた。このとき、若者の地域参画において、市と方向性が異なってはまずいということで調べたら、キナイヤプロジェクトは市の事業と連携しており、問題ないことを確認し、プロジェクトのリーダーである打田亮介さんに研修会の講師をお願いすることとした。1月10日に打田さんから「高田の町家リノベーションまちづくり」をテーマに講演いただい

た。認識した課題点としては、活動の一般者等へのPR、資金源、空き家の早期譲り受けで、これらの課題について現状を調査した。インターネットのホームページで活動を発信している。キナイプロジェクトにおいて行政の方もメンバーになっており、協力を得ている。市民団体による冊子発行によってPRがなされている。そういったことが分かった。発行活動に若者も含まれているということで、若者も高田区のまちの再生に協力している。資金源については、行政からの補助金やクラウドファンディングを利用していることが分かった。空き家の早期譲り受けについては、モデルケースとして町内会と行政が協働して、まちなか居住推進事業のプロジェクトの中で空き家の早期譲り受けを検討中ということで、大町5丁目と市の都市整備課の協働でやられていることを確認している。

課題について、その対策が現在進行形であり、問題なしとし、その活動の様子を見ていきたいという判断をした。

町家見学会を4月2日、4月9日に行い、まめつぶ珈琲焙煎所、ビビット、天国@四九ノ市店を見学した。コミュニケーションできるスペースがあり、町家に新たな機能をつけている。コ・ワーキングスペース、一緒に働ける、そういう場所もある。今までであれば、町家をリノベートすると居酒屋とかそういう食料関係、カフェ等がメインだったが、ちょっと違う。コ・ワーキング、コミュニケーションできるという、ちょっと違うような機能が付加されている。

研修会の2回目ということで、5月9日に安楽さんと寺尾さんより介護関係のお話を聞いた。お二人の介護に対するモチベーションの高さを感じることができた。その情熱というか、新しい介護を考え、それに共鳴する若者がいた。また、行政の介護に対する意識の高い姿勢を感じることができた。介護されている高齢者の方が社会に役立っているという意識を高めることにより、生きがいを増長させるという、安楽さんの考えに同調を覚える。

町家、介護以外で活躍している若者ということで、アクティブスポーツ、焼き芋販売なども挙げた。

結論だが、高田区の活性化を大テーマにして活動を行い、若者の地域参画を小テーマで実態把握に努め、問題点を明確化し、その対策がなされているかについて調査した。その結果、今回調査した若者の活動において、行政、市民団体や町内会等

との協働でうまく行われていることを確認した。PRについて、インターネットによるホームページやフェイスブック、インスタグラム等があり、問題ないと判断する。しかしながら、そのインターネットの情報に到達するまでがポイントになるが、キーワードで検索できる。特に地域住民に対してどのように活動を周知し、協力を仰ぐか。行政にお願いするだけでなく、地域協議会としても周知方法を考えていきたい。資金源においても、行政からの補助金があり、更にクラウドファンディング等で資金調達が可能となり、若者の参画を助長している。以上のことより、現時点では自主的審議事項になるような課題はないと判断する。今後は定期的に今回関係した若者のグループと協議していき、問題点があれば一緒になって考えていきたい。少なくとも第四期の地域協議会が終了するあと2年間はCAPD（チェック、アクション、計画、実行）を行っていきたい。また、今回お世話になった方々に敬意を表し、本報告書をお配りし、実態を知っていただき、若者の地域参画に積極的な関与をお願いしたい、とした。

そして今後の展望。今回、高田区の活性化と題して、若者の地域参画を取り上げて活動をしてきた。一方、市では地域自治推進プロジェクトに関連して、地域協議会に「元気事業の提案」や「意見書の提出」、「地域内での課題解決」に向けて自主的審議事項による議論を進めること。また、「地域活性化の方向性の作成」を依頼してきた。この中で元気事業について言及する。12年間の地域活動支援事業の補助金の推移をみると、12年間で1千万円前後の金額の補助を受けて高田区の活性化に貢献している団体がある。そのうち令和4年度において提案している団体もある。それらの団体と意見交換を行い、更なる活性化につなげてはどうか。その時に若者の地域参画という観点も入れて意見交換をしたらどうか、とした。

今までのところで何か質問があればお願いしたい。

【本城会長】

よくまとまっている。細かく整理してある。

私からの提言である。4月28日に市から地域自治推進プロジェクト及び地域協議会の取組についてが地域協議会委員に配布され、5月の地域協議会で南部まちづくりセンターから説明があった。市から地域協議会への要請は、「元気事業の提案」や「意見書の提出」、「地域内での課題解決」に向けて自主的審議事項による議論を

進めること。また、「地域活性化の方向性の作成」への着手である。これについて5月の地域協議会では、市の提案する日程には時間的に無理がある、市の将来計画が示されない中で個別計画はできない、などの意見があった。高田区地域協議会としても9月のタイムリミットがある中でどう対応するのか、第1分科会としても意見を早急に集約することが必要となっていると思う。本日の活動報告案を受けて、今後の協議の参考にして、検討いただきたい。特に令和4年度をもって地域活動支援事業を終了するとの方針を受けて、これまで当事業の助成で長年活動してきた高田区の各団体の活動の停滞を懸念している。高田区の活性化を議論する第1分科会として、元気事業や地域活性化の方向性に向けた検討を急がないと、市のスケジュールに対応することができない。

富田座長から示された高田区で長年、地域活動支援事業を継続している団体との意見交換会の開催を早急に検討し、市民の意向も参考にすべきと考える。例えば、高田区のまちづくりを進める課題としては「みどりと歴史のまちづくり」として、高田城址公園は往時の面影を今に残し、高田のまち並みは日本一の雁木や400年の歴史ある社寺、市街地を流れる青田川などの貴重な資源が残されている。これらの資源を生かして自然、歴史、文化が調和した高田らしさのあるまちづくりを進め、地域の活性化に役立てる。「桜、蓮、紅葉、雪、水辺」など、高田の四季の変化を生かした潤いのあるまちづくりと景観づくりが大切と考える。高田城址公園や雁木のまち並み、寺町通りの社寺、青田川の景観など、城下町高田の雰囲気伝える歴史資源を感じさせるまちづくりが大切と考える。こういったことから、高田区の元気事業、地域活性化の方向性について、次のような自主的審議を加速すべきと考える。高田の雁木景観資産としての保存再生事業、青田川の環境保全と桜並木の整備事業、高田区市街地のミニ観光回遊と世代間交流事業、高田城址公園整備事業などである。これらについて、南部まちづくりセンターや市の関係部署の協力を求め、各市民団体との意見交換を参考に課題を整理して、元気事業の提案を高田区としてスケジュール対応しないといけないのではないか。元気事業は地域住民、地域団体との意見交換で把握した課題への対応であることを踏まえ、議論したい。

第1分科会のみでなく、地域協議会として協議したい。若者の地域参画の要素も生かしながら考えていきたい。

以上、これは私の案なので、皆さんから意見をいただき、直すところは直して方向性を整理してもらえばありがたい。

このような計画を立てるときに13区は総合事務所があって、20人も職員がいて、いろいろな課題をまとめている。高田区の場合はまちづくりセンターに3人しか職員がおらず、和田区、金谷区、三郷区とかけ持ちでやっている。だから行政の力を借りなくてはいけない。まちづくりセンターが中心になって、例えば高田城址公園なら都市整備課、町家の問題であれば景観の担当係、そこが中心となって大町や南本町の雁木についての指導をしている。その知見がないと地域協議会が難しい計画を立てて、地域事業としてやっていくことは困難だと考える。一緒になってやらないと机上のプランで終わってしまう。

【富田座長】

地域協議会の委員は時間もなく、そのようなことの経験もない中で、9月ぐらいには目途を見つけないといけない状況にある。

【本城会長】

高田区として共通する課題で整理しないといけない。今年度の地域活動支援事業の24団体は、それぞれで活動している団体なので、ある程度、高田区の共通課題で整理するとすれば、例えば雁木で括る。雁木ということになれば、景観事業もやっている。それから、例えば朝市を含めて、高田瞽女のこと等を元気事業として地域の団体と一緒に市の方に提案する。予算をつけてもらわないと何もできない。

例えば仮に1,200万円の予算を高田区として、雁木に関する予算としてみてほしいとする。では何をするかというと、南本町、大町、東本町の雁木を統一した何かをするとか、市の予算で高田区らしいものをすればよい。

南本町三丁目だと春の桜のしだれを雁木通りに一斉に飾っている。秋には紅葉を一斉に飾っている。通る人には南本町三丁目は元気だねと言われている。それを高田区の雁木通りにそれをつける。そういうことをすれば高田の街は景観的には賑わう。あるいは、雁木が暗いから、そこに雁木灯をつける。そういうことを雁木の景観事業として提案する。

結局そのようにしなくては、今やっている地域のまちづくりはもうできなくなってしまう。自前でやりなさいと言われても、自前でやるにはちょっと資金が足りな

い。そうすると今までやってきた活動を継続したいがしていけない、ということになるので、元気事業に市から予算をつけてもらえれば、後は地域の団体と相談してどのようなことをするか計画をたてていけばよい。私はそういうことしかないのではないかと考えている。市がもっと主導的にやる。

【浦壁委員】

やはり私達も切り替えないといけないと思う。市が求めているのは元気事業とか地域活性化であるが、結局これが究極の目的である。私は地域協議会と、それから各市民団体とか、地域の団体と一緒に、どこが主体とかではなく、一緒になって元気事業をやりたいと、そして意見交換をして、どうすべきか。

それには行政の力をまず借りなくてはいけない。アイデアとか費用とか絡む。焦点を決めて、元気事業にするにはどのようなことが必要なのかを考える。

今までは第一分科会で自主的審議事項に挙げるような感じで意見交換をしていたが、市長も代わって、考えがグローバルになってきているので、高田区地域協議会だけの問題ではなく、地域住民や市民団体と一緒に、どこが主体とかではなく、行政のアイデアを借りたりしながら実現できるものだろうと思う。

【高野副会長】

過去に「まちネット」という活動団体の集まりがあったが、コロナ禍になってから、ずっと中止している。

それで今また、私とAさんと一緒になって、元に戻そうということで、また話し合いを始めるが、すごく大事なことである。

それが元気事業というか、市民団体、地域住民等のことにあてはまる。それはそれでやって、あと市はまちをどうしていきたいのか、そのことも一緒になって話し合いをしていければよいと思っている。

本城会長と考えが違うのは、雁木について全部一律でやるのではなく、よく残っている箇所とか、活動を一生懸命しているところとかに注力してやることが一番よいと考えている。そういうことで街の回遊とかも考えていかななくてはならないであろう。

【小川委員】

私は一番基本となるところで、日本が元気になるには、日本人自身が日本人として

の誇りというか、そういうものを持たない限り元気にならないと思う。日本の神話にしろ、126代続いている皇室にしろ、このような国は世界にはない。そういうものを知ることによって、日本人としての誇りを持つ。高田区としての誇り、つまり根っこの部分。私は20年くらい前に市の中西さんから聞いた「高田のまちにこめた祈り」。つまり400年前は原っぱだったところに、このまちを作ったわけである。まだ、高田のまちは400年前の通りがそのまま残っている。その町づくりに込められた基本思想というか、そういうものを知ることによって、このまちは素晴らしいまちなんだと思うことが、まずは基本になると思う。それは中西さんの「高田のまちにこめた祈り」というものを読めば誰でも理解できる。

要はそういう根本思想というものの、基礎をしっかりと踏まえたうえで、本城会長が言われたような方向に持っていく。まず自分の生まれた土地のことを知らない限りは、根っこがちゃんとすることが大事である。

【高野副会長】

それをどうしたいというのか。

【小川委員】

活動をするにしても自分の根っこを知る必要があるということである。

【浦壁委員】

人の心理までを私達は動かすことができない。私達が、元気事業を地域協議会と市民団体と地域団体とで盛り上げて、とにかく活動することによって、地域住民の心もだんだんと動いてくるわけであって、人の心理を動かすことは、どんなに立派な人でも無理だと思う。

【富田座長】

我々が10か月やってきたように、残すことである。

例えば、活動の中で講座を作って、3回、4回やる。400年前の高田城のことを知ってもらおう講座をしてもよいと思う。

【小川委員】

今まで20年間で、県外から来た人に先ほどの話をすると、皆感動する。

【浦壁委員】

市長が地域の活性化、元気を出そうということを言っている。このことはすごく分

かる。私達もこのようによい会議の場があるので、難しいことは言わないで、皆で協力してその土台作りをする手伝いをしましょうという気持ちで、そのような会議の持ち方をしていけたらと思う。

【高野副会長】

このまちのよいところを見つけて、まちに対して愛着を持つ。精神論というか、それよりもよいところを見つけて、いろいろ活動して、「いいまちだな」と思えば、そういう精神も沸いてくるのかなと思う。

【本城会長】

元気事業は、市が言うように地域住民、地域の団体と意見交換をした課題でなければ受け付けないとされている。だから、私達だけで議論してはだめである。

各団体の代表を入れて意見交換しながら、活性化について、こういうテーマで意見を聞く、ということをやりながらまとめていけば、まとまるのではないか。そのようなことから、分科会の議論を一区切りとして、意見交換を早めにやった方がよい。

【富田座長】

本日のことを次回の地域協議会で報告したいと思う。

- ・閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL: 0 2 5-5 2 2-8 8 3 1 (直通)

E-mail: nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。